



2021年2月

2021年も明けて2ヶ月ほど経ちますが、会員の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。昨年は10月に例会を開催したのみで、中々お目に掛かる機会に恵まれませんでした。今年はコロナを乗り越えてまた正常に例会や食事会など開催ができることを切に願っております。その際には是非ご参加いただき楽しいひとときを一緒に過ごせたらと思います。

さて、現世においても後世においても2020年はコロナの年だったという評価になるのだと思います。早く収束してコロナの心配がない日常に戻りたいと誰もが願っているところですが、中々簡単には実現しそうもありません。一部ワクチンの話も出てきて少しは明るい材料が出て参りましたが、非常事態宣言下ではなんともよくなる実感がわいてきません。このような話をするとすべてが暗い話ばかりに感じますが、コロナの問題そのものは遅かれ早かれいつかは解決するものだと思っております。そして、この問題が解決したときに何が残っているのか、この間何に取り組み何を作ってきたのかが問われる日が早晚来ることは間違いありません。今のところ、私はこの間取り組んできたことに自信を持って間違いのないと言えるような成果はあり

ませんが、少しは前に進めたかなと感じてはおります。コロナ後にその評価を社会から受けることにすごく恐れながら、少しだけ楽しみにしております。

いずれにしてもコロナが終わらなければ何も進んでは行けませんので、私自身も微力ではありますが、手洗い、マスク、体温測定、密回避など対策としてできることはしっかり行って、一日でも早い収束に協力して参りますので、是非会員の皆様とも力を合わせて乗り越えていけたらと思います。一日も早い再会を心より願っております。皆様におかれましては健康にご留意いただきご自愛ください。

上山 伸治



## ウツボ釣り

我が家はファミリーフィッシング(小魚釣り)が趣味で尾鷲(三重県)を軸によく釣りに出かけます。全くつれなくても尾鷲から南の海はサンゴや熱帯魚がみられ、眺めるだけで癒されます。

釣れる小魚はずっと小アジ・小サバ・カサゴ・ハタ・ベラ、時にはワタリガニや真蛸が採れた時もありました。いろいろな釣り方を覚え、岸釣りもほぼ経験したと思ってました。ところが今季は子供の思わぬ発想に、まさかの新しい境地に辿り着きました。きっかけは息子がウツボを釣りたいと言いだした事です。

大した仕掛けでなく、ただ特大の釣針に小鰻をつけて岩の間の穴に落とすだけだったので、好きにやらせました。するとしばらくしたら、息子の竿が90度に曲がり、大きめのハタが釣れました。それを見て皆ウツボ釣りに切り替えたところ、35センチのマハタ、37センチの赤ハタ、そしてついに88センチの大きなウツボを釣り上げました！帰りのトロ箱の中は、岸釣りの釣果とは思えない内容でした。

帰宅後、早速ウツボのさばき方をYouTubeで調べたところ、骨が独特で上半身は骨が少なく食べやすく、

コラーゲン質の皮を焼いてタタキにしたり、下半身は骨が複雑で、煮物や唐揚げにして食べました。味は独特な見た目とは全く違い、とても上品な味でそのギャップにいい意味で裏切られました。息子のウツボ熱はまだまだ続きそうです。

上山 有里子



## 義父の還暦

来年の10月、義父が60歳になります。故郷では、男性の60歳の誕生日には大きなお祝いをする風習があるそうで、今から計画を立て始めています。義父は、これは結婚式よりも重要なお祝いだと楽しみにしています。私たち夫婦も、そのときには子どもを連れて故郷を訪ねる予定です。

当日の誕生日会は、息子である義

弟の主催ですが、前日には「暖寿」と呼ばれる晩餐があり、そちらは娘が担当するのが一般的だそうです。中国には一人っ子政策があったのに、何故そんな風習が残っているのかと不思議に思いましたが、故郷の全州は広西チワン族自治区にあるため、政策は非常に緩く運営されており、二人以上の子どもが居る家庭は意外と多いそうです。

当日の誕生日会では、誕生日プレゼントとして参加者は現金を持ち寄ります。誕生日会の様子を撮影した動画を何件か見せてもらいましたが、本人の目の前で現金を数えてそのまま渡していたり、席に着けばさっそく持ち帰るために料理を袋に詰め始めるなど、堅苦しさとは無縁の誕生日会のような様子でした。

## 成語故事コーナー

南北朝時代。宋の謝靈運は幼少の頃から非常に賢く、本をよく読み、多くの山水詩を残しました。謝靈運が永嘉の太守だったころ、彼は自分の地位に不満を持ち、しばしば公務をさぼって山川の名所で遊んでいました。

結局、彼は太守を辞め、故郷の会稽に帰ることになります。そして、毎日友人たちと詩を詠み、優雅に遊びながら暮らしていました。この頃に彼が詠んだ山水詩は、人々にとっても愛されていました。彼が新しい詩を詠むたびに、人々はそれを真似して楽しみ、瞬く間に広まっていきました。

cáigāobādǒu

## 才高八斗 (八斗の才)

「謝さんの詩は、優雅で深みがあり、独特で素晴らしい！」みんなは口々に彼を称え、謝靈運は、それを聞いてとても気分を良くしていました。

その後、即位した宋の文帝によって謝靈運は都へ呼び戻されます。彼は再び宮廷に仕え、文帝のために多くの詩を詠みました。文帝は謝靈運をとっても気に入り、彼の詩と書を「二つの宝」と呼んで賞賛しました。

謝靈運は更に気分を良くし、あるとき得意げに言いました。

「天下には多くの文学人が居れど、私が賞賛できるのは曹植ただ一人

です。この世の文学の才能は一つの石であり、曹植はその石の八斗を独占しています。そして私が一斗を持ち、残りの一斗を世の人々が分かち合っているのです。」

.....

そのまま読むと「八斗の才能」ですね。優れた文才や豊富な知識を表す言葉だそうです。

謝靈運は山水詩の祖として名を残していますが、性格にはかなり問題があったようです。その後、文帝の処遇にも不満を持ち、再度故郷へ帰っています。そして豪遊を繰り返した挙句に役人と揉めて投獄され、最期は処刑されてしまいました。

## 漢方教室 122 ミドリムシと酵素のパワー

### 【ミドリムシとは？】

ミドリムシは、名前にムシと付きますが虫ではなく藻(も)の一種です。動物性と植物性の両方の栄養素を持っておりアミノ酸18種類、不飽和脂肪酸13種類の動物性栄養素と、ビタミン13種類、ミネラル10種類の植物性栄養素、さらにミドリムシ特有成分である免疫向上成分のパラミロン(β-グルカン)などの5種類の特長成分をバランスよく含有し、完全栄養素とも呼ばれています。

### 【ミドリムシの独自成分、パラミロン】

ミドリムシに含まれているパラミロンは、ほかの生物では得られない、ミドリムシ特有の成分です。パラミ

ロンの表面には無数の細かい穴が開いており、ミドリムシが光合成で作った糖分をそこに吸収すると考えられています。その特徴を利用して、パラミロンを人の体内に取り込むと、その細かい穴に体内の不要な物質(中性脂肪など)を吸収する性質があるといわれています。

### 【酵素】

酵素は、生命活動をしている物には必ずある物質で、ほぼ「タンパク質」からできています。酵素は食べ物の消化を始め、皮膚の新陳代謝、血液の循環など体のあらゆる働きに関わっています。酵素が不足すると、



すぐに体調に現れます。やる気が起きない、消化不良、肌の不調なども酵素不足が原因の可能性があります。

日本安恵の『ミドリ酵素』は、ミドリムシだけが持つ特有成分パラミロンのほか酵素、酵母、有胞子乳酸菌、黒酢粉末など配合したサプリメントです。

興味のある方は

052-242-3930まで。

中統ビル3階 日本安恵株式会社



中国からの引き揚げ—思い出すがままに④⑤

昭和29年高校入学と同時に剣道部に入部しました。禁止されていた剣道が復活して二年目、部室には剣道の防具と「撓い競技」の防具が混在していました。正課授業として取り上げられた「撓い競技」でしたが、広く浸透することなく、昔からなじみのあった剣道にとって替わりました。

3年生の先輩に引率されて部室に入ってびっくりしたのは、異様なおいででした。薄暗い部屋には、汗のしみこんだ稽古着や防具が壁にぶら下がっていました。特に竹刀を握る防具の小手のにおいは強烈でした。あまりの悪臭に先輩に対して「このにおい、何とかありませんか」と言ったところ、「このにおいが気にならなくなったころ、お前の剣道がうまくなっている。」と言われ、まさかと思ったものでした。不思議なもので、しばらくしたら、この悪臭も気にならなくなりました。

当時としては、衛生といった意識もあまりなかったような気がします。今なら汗にまみれた稽古着は毎日持ち帰り、洗濯したでしょう。また共同で使う防具などは汗を拭きとり、天日干しにしたでしょう。

こうして、剣道部の練習が始まりました。

杉本 克治



新コーナー お便り

先月の姜慧君さんのお話について、会員さんからさっそくお便りを頂いたので、こちらで紹介したいと思います。

便利で華やかな都会、そして高収入の豊かな暮らしに背を向けて、あえていなかへ赴く決意をするのですね。高い志を讃えます。苦労はあっても生きがいのある人生になると思います。

中国の若い人たちの頼もしい考え方に感動しました。そして「僻地で井戸を掘る」ということから中村哲さんを思い浮かべました。

中村哲さんは日本の医者でしたが 医療支援ボランティアとしてアフガニスタンに行き、この地で必要なのは「医療より水」と考え、30年の滞在中、荒野に1600箇所の井戸を掘り、25kmの用水路を作りました。アフガニスタンでは「中村おじさん」と皆に慕われましたが、日本に帰ることなく、2019年アフガニスタンで亡くなりました。興味のある方は調べてみてください。

お便りありがとうございました。姜慧君さんの真摯な姿勢に感銘を受けた会員さんがたくさん居るみたいですね。姜慧君さん、ありがとうございました。日本語の勉強頑張ってください。

続いて、新コーナー第2弾は熊織愉さんです。どうぞ！

日本の小説 熊織愉

日本を近く感じるのは小説のおかげです。

大学受験前、ストレスを解消しようと、漱石の『吾輩は猫である』や『坊っちゃん』を読みました。人間を見るクールな猫の目や、坊っちゃんの無鉄砲な性格など、小説の面白さで気持ちがパッと晴れるようになりました。

大学に受かり、田舎の故郷から都会の大学に来ました。周りの景色が高層ビルや自動車に変わり、戸惑いを感じる時期がありました。そこで『三四郎』を読みました。学業のために上京した三四郎が感じた「三つの世界」は私もあります。故郷、学問、そして華やかな都会の三つ。私も新しい環境で勉強し、新しい生活に慣れようとしています。どのように他人に接すれば

いいか、将来は何をしたいかと、正解なき世界に突き込んでしまいました。それが成長の過程だと分かり、落ち着くようになりました。

日本文学が好きです。将来は日本語教師になり、自分の成長する経歴を若者たちにシェアしたいと思います。

今回は、文学大好きな熊織愉さんのお話でした。大学生生活を頑張っている熊織愉さんに、感想や質問、励ましのメッセージなど、どんどんお寄せください。日本語を学んでいる外国の若者たちを応援しましょう！



## お知らせ

### ★3月例会

3月例会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。

### ★JCCA 中国語サロン

日時：3月6日（土）20日（土）14：30～

### ★日本語広場

3月の日本語広場はお休みです。

### ★4月例会

未定

\*3月のニューズレターにてお知らせいたします。

### 上山学院の様子

いよいよ来月の卒業式を控え、卒業に向けての準備を着々と進めております。2月中旬からは在校生が対面授業に切り替わり、検温・消毒で気を付けつつですが、学校がまた少し賑やかになりました。進学もあと少しとなり、スタッフ一丸で最後までサポートしていきたいと思っております。

今年度の新入生達は学校にも少し慣れ、今はITを取り入れた新しいカリキュラムも挑戦中です！入国が大幅に遅れ異例のスタートを切った学生たちですので、試行錯誤工夫しながらより濃い学校生活にできるよう、頑張りたいと思っております。

そしていよいよ3月は来年度の学生達が入国管理局の発表を受け人数が決まります。状況的には残念ながら4月の入国は難しいと思われませんが、コロナの春は二回目ですので、この一年得た経験をもとに、新年度の新入生達には来日までの時間を無駄にしない様に、昨年より一歩進んだ取り組みが出来ればと思っております。



### 第15回 名古屋中国春節祭

毎年、久屋大通公園で3日間に渡って開催されていた名古屋中国春節祭は、今年は新型コロナウイルスの影響で1月9日だけの開催になり、場所もウインク愛知の大ホールを使用し、飲食や物産のブースも無い状態で行われました。3日間の延べ来場者数では20万人を超える規模のイベントだったのですが、今回は入場者数も最大200名と規制されていたため、当日の様子やお店の宣伝など、インターネットを使って配信されることになっていました。

インターネットを使った配信に関してですが、現在Youtubeの「Spring Festival Nagoya」というチャンネルにて配信されています。Youtubeへ行き、「Spring Festival Nagoya」や「名古屋中国春節祭」で検索すると見つけることができます。

第15回名古屋中国春節祭は、二時間半以上ある動画です。中国料理店の紹介から始まり、観客席に躍り込む中国獅子舞（0:17:00）を皮切りに、馬頭琴のウンドスさん（1:27:00）や二胡のチャンピンさん（1:38:00）も登場します。皆さんも是非、当日の雰囲気味わってください。

### 愛・地球発 二胡のふるさと 第16回『桜二胡音楽会』2021

日時：4月4日（日）15：00 開演予定

会場：名古屋市公会堂（鶴舞公園内）

鑑賞無料

主催：特定非営利活動法人チャン・ピン二胡演奏団

### 編集局

編集局では現在、携帯電話番号、生年月日、E-Mailアドレスのご登録を推奨しています。イベントのご案内、「誕生日の人の言葉」の掲載、WEBサイト更新の通知などに使用致します。china@chuto.co.jp宛にご送付ください。ニューズレターは、WEBサイトにてカラー版を公開しています。郵送不要の方は「郵送不要」とご連絡ください。



〒460-0008 名古屋市中区栄4-16-29 中統奨学館

TEL：052-262-1410 FAX：052-262-5036

一般社団法人日中文化協会

編集長 上山耕治